

どうご

道後地区

面積：2.1 km²

人口：11,394人（高齢化率 23.5%）

世帯数：5,180世帯

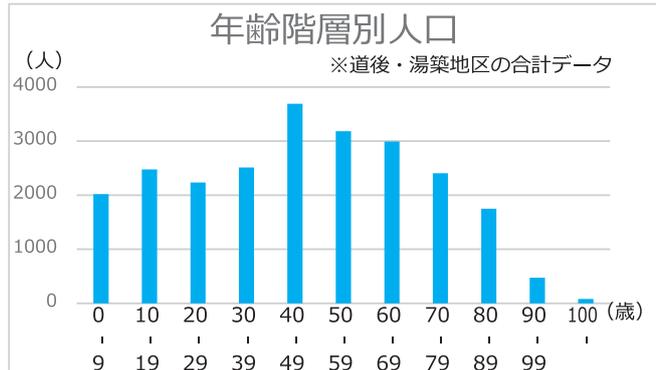


【地区の特色】

道後地区は、政治、経済、文化の中心として古くから発展しており、まさに「道後温泉」の名を冠とした歴史と文化の由緒ある地区名である。道後温泉本館の南東の方角に中世後期に伊予国を支配した河野氏の湯築城跡や子規記念博物館がある道後公園、また、東に四国八十八ヶ所 51 番札所「石手寺」など観光客や地区住民が訪れる憩いの場となっている。



道後公園



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・道後温泉や道後公園などの観光資源が多い ・平坦な土地で、災害も少なく住みやすい ・治安がよい ・中心市街地に近く通勤、通学等に便利である ・駅周辺地域は交通の便がよい ・病院、スーパー、学校など生活関連施設に恵まれており、移動図書館や移動スーパーも来るなど生活に便利である ・転校生が多い地域であるが、子どもたちが溶け込みやすい環境にある ・教育熱心な地区であり、通学路の見守り活動等も盛んである
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・空き家が増えてきている ・自力で移動できない高齢者には、交通に不便な地域が一部ある（石手白石・新石手） ・公民館、集会所の老朽化 ・集会所が少ない（駐車場が少ない） ・マンションなど、町内会に入らない世帯が増加している ・児童が遊べる公園が少ない ・災害時の避難場所が遠い地域がある ・土地の価格が高く、家賃が高い ・自主防災組織が一部団体に限られており、オール道後地区となっていない
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立した高齢者の増加 ・高齢者は公民館、分館の階段が困難で利用しにくい（エレベーターがない） ・一部移動手段の不便な地域がある（石手白石・新石手） ・住民の防災意識が低い ・自主防災組織が一部団体に限られており、災害時に連携がとれるか不安がある ・地域行事への参加者が少ない ・役員やお世話役、活動に関わる後継者不足 ・マンションの増加や転勤族が多いため、近所づきあいが希薄化している ・人が集まり、活動する場所が少ない ・地域福祉サービス事業の活動がない

道後地区社会福祉協議会

ささ あい ゆ 支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉

構成団体	地区民協・小学校・中学校・高齢クラブ連合会・公民館・町内会連合会	
主な取り組み	活動内容	
福祉&防災 MAP の作成	地区内の社会資源やバリアフリーの整備状況など福祉分野の情報に加え、防災の視点も取り入れた MAP を作成し、地域住民の方に役立ててもらっています。	
サロン交流会の開催	毎年1回、サロン代表者・世話人交流会を開催し意見交換を行うなど、サロン3ヶ所（いきいき2、地域交流1）の支援を継続して行っています。	
福祉講座の開催	道後・湯築地区社協が合同で、毎年2回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。	

道後小3年生道後温泉入浴体験

道後小学校と協働し、毎年10月頃3年生児童を対象に歴史的建造物である道後温泉本館において地域の歴史を学ぶとともに、公衆浴場での入浴体験を通して、地区住民や観光客とのふれあいや入浴マナーの向上を図ることを目的として、平成24年度から実施しています。



<地区社協が目指すもの>

道後地区は、道後温泉をはじめ子規記念博物館、湯築城跡のある道後公園など類をみない文化財や史跡があります。道後地区社協では「**ささ あい ゆ 支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉**」を基本理念とし、温泉で育まれた温かさと支え合う心を大切にした福祉活動を目指しています。また、子どもや高齢者、障がい者に優しく暮らしやすいこのまちの良さを後世に引き継いでいきます。現在、取り組みが不十分な防災・減災にも対応できるよう、関係機関・団体と連携・協働するまちづくりを目指していきます。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	22名 2名	■町内会・自治会・区長会等 ■高齢クラブ ■子ども会	27団体 2クラブ 0団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	3組織

平坦な土地で比較的災害の少ない地区であるため、住民の防災への意識が低くなりがちであることから、地区社協では医療・福祉だけでなく防災に関する情報を1つにまとめた「福祉&防災 MAP」を作成しています。また、マンションの増加や転勤族も多いことから、町内会の加入率も課題となっていますが、子どもの道後温泉入浴体験等は地域への愛着を育むだけでなく、地域活動との接点の少ない子育て世帯の保護者の耳にも必ず届くため、地域を生活の一部に感じるきっかけとして注目されています。退職後の居場所としてサロン交流会等は拠点となることから、現在の活動は次の世代につなげる礎になっているといえるでしょう。

ココがポイント



湯築地区

ゆづき

面積：4.19km²

人口：11,737人（高齢化率 28.7%）

世帯数：6,299世帯

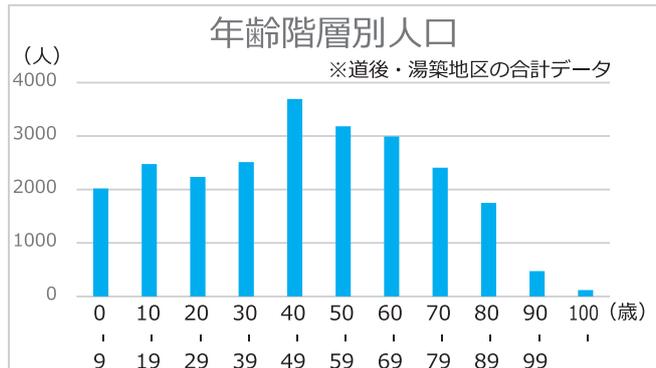


【地区の特色】

湯築は、道後温泉の中心地、道後湯之町・白鷺伝説の鷺谷から西の御幸山の麓まで広がる祝谷（湯湧谷が転訛 旧温泉郡道後村）の農村地域であったが、現在は松山の中心市街地や文京地区に近く、閑静な住宅地として発展変容してきている。近年定住された世帯は高齢者比率が非常に高く独居高齢者世帯も多くなっている。また、農地の宅地転用の中小規模賃貸マンション・貸家の比率が高く、年間の転出入が多い。



やっこおど
奴踊り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・道後温泉をはじめ歴史伝統文化史跡が多くある ・中心市街地、文教地区に近く、閑静で自然豊かな住宅地 ・愛媛大学、松山大学が近く、学生や若者が住みやすい町 ・教育に熱心な校区とされ、移住の希望が多い ・病院、介護施設が多い ・しめ縄作り等の行事へ、高齢の協力者が多い ・秋祭りの炊き出しにおいて団結力がある（祝谷公園）
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・現役世代が少なく高齢者世帯が多い ・坂が多く高齢者が歩くのが大変 ・伊予鉄バスの便が少なく不便 ・地盤が弱く土石流危険箇所が多い ・避難場所が少ない ・交流ができる場所が少ない ・役員のなり手がなく子ども会が減少している ・若者の行事への参加が少ない ・大型マンションはカギが個人持ちで共通キーもなく安否確認に不安 ・AED等の救護設置箇所が少なく偏っている
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯、高齢者独居世帯、老々介護世帯が多い ・買い物難民の心配が危惧される ・一部公共の乗り物の不便さがある ・若い世代は共働きが多く行事の参加がむずかしい ・役員のなり手がなく、交代ができない ・災害時の支援体制が整っていない ・大型マンションの住人と地域住民の交流ができない

湯築地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・道後温泉旅館組合・道後商店街振興組合・中学校・小学校 公民館・自治会連絡協議会・高齢クラブ長寿会	
主な取り組み	活動内容	
ふれあい料理教室	食生活の改善や近隣住民とのふれあいの場を目的として5月から9月にかけて毎月開催しています。高齢者を中心に老若男女だれでも気軽に参加できます。	
三世代交流	秋祭りの奴踊り、獅子舞や年末年始のもちつき、しめ縄作り、七草がゆなどの行事を通じて、世代間の交流が深まるように活動を支援しています。	
福祉講座の開催	湯築・道後地区社協が合同で、毎年2回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。	

湯築小学校 5年生入浴体験

平成22年度から始まった入浴体験では道後温泉に初めて入浴する子どもや公衆浴場のマナーを教わる子どもも多く、入浴マナーや道後の歴史などを学ぶことにより、道後温泉の魅力や再発見し郷土愛の醸成を図ることを目的としています。



<地区社協が目指すもの>

湯築地区社協は、「子どもが安心して育てられる町」「お年寄りに優しい町」「誰もが地域行事を楽しむに参加できる町」この3つの町づくり基本骨子の推進活動を目標にしています。

<活動方針> ①地区の小学校・中学校への福祉学習サービス支援を行う。②ふれあいサロン・料理教室等、地域住民の交流促進とリーダーの育成を行う。③福祉講座開催などにより福祉活動への参加意欲の啓発啓蒙、協力会員の発掘を行う。④福祉だより等の広報により地域福祉活動の意識向上を図る。⑤地域行事など伝統文化を大切にする人の輪づくり。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等 ■高齢クラブ ■子ども会	44団体 2クラブ 6団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	1組織

道後温泉本館のある湯築地区では、地区社協の構成団体に旅館組合や商店街組合等の観光地特有の団体が参加しており、子どもたちの郷土愛を育むための観光資源をいかした取り組みや活動が実施されています。一方で若い世代の地区活動への参加や、マンション世帯との接点の少なさが課題になっています。この状況はそのままにしておくと希薄化が増すばかりですが、地区社協が中心となって取り組んでいるふれあい料理教室や祭りなどの三世代交流、道後温泉入浴体験等は住民間や世代間の接点をつなげているほか、地域への愛着を育む場ともなっています。これらの活動を引き継いでいけるよう、意識的に地域全体で支えることが期待されています。

ココが
ポイント



くわばら

桑原地区

面積：6.1 km²

人口：25,580人（高齢化率 26.2%）

世帯数：12,327世帯

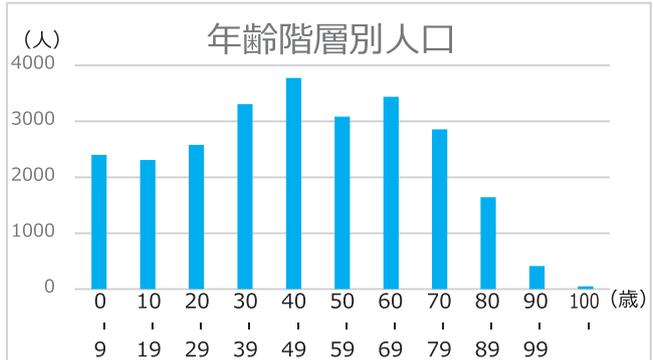


【地区の特色】

桑原地区は、松山市の東に位置し、経石山（きょうせきざん）古墳があり古くから開けていた町である。また、松山藩主久松氏の別邸が「東野お茶屋跡」として残っている。現在は団地やマンション等の建設が相次いでいるが、一部農家も残っており山林、田畑、果樹園が占める面積も多い。伝統行事（獅子舞、子ども相撲）の継承活動も続けられており、古い時代の良い部分を残しながら発展している。



淡路ヶ峠から望む桑原地区



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者多機能型事業所きらりの森と児童館が併設されており多くの人々が利用している ・市内にも近く、自然にも恵まれており住みやすい環境である ・2つの大学があり学生や留学生との交流の機会がある ・交通の便もよく、生活関連施設にも恵まれており、生活がしやすい ・まちづくり協議会の存在が大きい ・防犯対策が進んでいる ・町内行事に参加者が多く、協力的である
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・一部地域（東野・正円寺・三町）はお店が無く、買い物に不便である ・一部地域はバス停までの距離が遠く不便である ・一部の地域や世代では行事への参加が少ない ・災害の時、東野や畑寺の一部で山崩れやため池の氾濫が不安材料となる ・大雨による川付川の氾濫の不安がある ・一部の住民でゴミ出しルールが守られていない
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所のない地区（東野1丁目）があるので、横の繋がりが取りにくく、防災の時困る ・買い物場所が近くにない地域が多い（東野、正円寺、三町） ・通学路が狭くて危険な場所がある（桑原保育園前、東本の市道桑原18号線） ・桑原中学校付近は、通学路が暗く人通りが少ないため、防犯面で不安がある ・高齢化で独居世帯や空き家が増えている ・小中学校の学校選択制により、同じ町内でも近所付き合いが希薄になる ・共働き世帯が多くなり、横の繋がりがつくりにくい

桑原地区社会福祉協議会

桑原の郷 みなでささえて安心ぞ！なもし

構成団体	地区民協・公民館・水利組合・校区婦人会・町内会・自主防災・消防団・防犯協会 高齢クラブ連合会・土地改良区長会・女性防火クラブ連合会・遺族会・交通安全協会 中学校・小学校・支所・まちづくり協議会・広報協議委員会・更生保護会・体育協会 いきいきサロン	
主な取り組み	活動内容	
福祉講座の開催	地域で高齢者が健康で安心して生活できるように、毎年3地区ごとに福祉講座を開催しています。	
福祉教育の充実	桑原中学校の生徒が高齢者福祉施設を毎年2回訪問し、利用者の方々と交流を深め、人を敬う気持ちを育てています。	
独居高齢者給食サービス	70歳以上の独居高齢者の方々に、特別メニューのお弁当を民生委員・児童委員の協力を得て配布し、喜ばれています。	

高齢者ふれあい運動会（11月頃）

平成24年から開催している65歳以上の高齢者の運動会で、毎年150名以上が参加しています。高齢クラブやいきいきサロン、地域の高齢者の健康増進や交流の場になるよう活動を支援しています。



<地区社協が目指すもの>

桑原地区は、世帯数12,327世帯、人口25,580名（平成30年4月現在）と松山市40地区の中で6番目に多くの皆さんが生活されています。私たちは「治安が良く安全で、健康で安心して生活できる」環境が整っていることが福祉の充実した「まち」だと思います。桑原地区社協は、高齢者の生きがいづくり・健康増進等のための「サロン」の増設や特に男性参加者の増員を図り、また青少年の健全育成、地域の防災・減災・防犯対策、さらに隣近所の挨拶から会話や助け合いのできる「まち」の実現に注力する等、地区内の各団体とも協働し一層の地域福祉の向上を目指します。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	39名 2名	■町内会・自治会・区長会等	22団体
	■まち協の設立	平成21年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	7クラブ 14団体 22組織

市内中心部に近く、自然も多い桑原地区は、東環状線が通ったことでさらに生活環境が整い、新しいマンションや住宅も増えています。高齢化が進むなかで、地区社協と地区民協が中心となった独居高齢者給食サービスにみられるような福祉的な支援のほか、高齢者ふれあい運動会等のイベントなど、高齢者がやりがいや楽しみをもって暮らせるような取り組みが実施されています。活動が継続できる背景として毎月、いきいきサロン代表者が連絡会を開催し、サロン間の情報交換の場をつくり活動を支援していることがあげられます。さらに中学生を対象とした福祉教育は若者が高齢者や福祉サービスへの理解を深める重要な場となっています。

ココがポイント

